

学校法人松柏学院寄附行為

(昭和36年 2月28日 設立認可)
(昭和36年 3月16日 設立登記)
(昭和47年 6月 2日 変更認可)
(昭和61年 4月 1日 変更認可)
(平成 3年10月25日 変更認可)
(平成 6年 6月22日 変更認可)
(平成17年 3月28日 変更認可)
(平成21年12月28日 変更認可)
(平成30年 6月25日 変更認可)
(平成30年 7月17日 変更認可)
(令和 元年 5月10日 変更認可)
(令和 2年 1月28日 変更認可)
(令和 2年11月17日 変更認可)
(令和 3年12月10日 変更認可)

第1章 総 則

(名称)

第1条 この法人は、学校法人松柏学院と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を鳥取県倉吉市福庭町1丁目180番地に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、有能な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- 1 倉吉北高等学校 全日制課程 普通科、 全日制課程 調理科

第3章 役員及び理事会

(役員)

第5条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理 事 (5人以上 8人以内)
- (2) 監 事 (2人以上 3人以内)

2 理事のうち1名を理事長とし、理事総数の過半数の決議により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 理事(理事長を除く。)のうち1人を常務理事にすることができる。その場合、理事総数の過半数の決議により選任することができる。常務理事の職を解任するときも、同様とする。

(理事の選任)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 校長。
 - (2) 評議員のうちから評議員会において選任した者。(2人以上 5人以内)
 - (3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者。(2人以内)
- 2 前項第1号及び第2号の理事は、校長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(監事の選任)

- 第7条 監事は、この法人の理事、職員(校長、教員その他の職員を含む。以下同じ。)、評議員又は役員
の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であつて理事会において選出した候補者のうちから、評議
員会の同意を得て、理事長が選任する。
- 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を
選任するものとする。

(役員任期)

- 第8条 役員(第6条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。)の任期は理事を3
年とし、監事は2年とする。ただし、補欠の役員任期は前任者の残任期間とする。
また、役員任期の満了日をその任期が満了する年度の3月31日とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
- 3 役員は、その任期満了後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(役員補充)

- 第9条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたときは、1月以内に補充しな
ければならない。

(役員解任及び退任)

- 第10条 役員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事
会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。
- (1) 法令の規定又はこの寄附行為に違反したとき。
 - (2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
 - (3) 職務上の義務に違反したとき。
 - (4) 役員たるにふさわしくない非行があったとき。
- 2 役員は次の事由によって退任する。
- (1) 任期の満了
 - (2) 辞任
 - (3) 死亡
 - (4) 私立学校法第38条第8項第1号又は第2号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(理事長の職務)

- 第11条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(常務理事の職務)

- 第12条 常務理事は、理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。

(理事の代表権の制限)

- 第13条 理事長及び常務理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長の職務の代理等)

- 第14条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に
従い、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事の職務)

- 第15条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。
- (1) この法人の業務を監査すること。

- (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) この法人の理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (4) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
 - (5) 第1号から第3号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを鳥取県知事及び理事会、評議員会に報告すること。
 - (6) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して、評議員会の招集を請求すること。
 - (7) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事会に出席して意見を述べること。
- 2 前項第6号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。
 - 3 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(理事会)

第16条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
- 6 前項の会議通知は、7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。
- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
- 9 前条第2項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 13 理事会の決議について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。ただし、理事会の同意があるときは、会議に出席し、発言することができる。

(業務の決定の委任)

第17条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定にあって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(議事録)

第18条 議長は、理事会の開催の場所（当該場所に存しない役員が理事会に出席をした場合における当該出席の方法を含む。）及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、出席した理事及び監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあっては、電子

署名。以下同じ。)若しくは記名押印し、又は議長並びに出席した理事のうちから互選された理事2人以上及び出席した監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

- 3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第19条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、11人以上 19人以内の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため、過半数に達しないときは、この限りではない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。
- 12 評議員会の議事について特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることができない。

(議事録)

第20条 第18条第1項及び第2項の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「理事のうちから互選された理事」とあるのは、「出席評議員のうちから互選された評議員」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第21条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 予算及び事業計画。
- (2) 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分。
- (3) 予算外の新たな業務の負担又は権利の放棄。
- (4) 寄附行為の変更。
- (5) 合併。
- (6) 目的たる事業の成功の不能による解散。
- (7) 解散（合併又は破産による解散を除く）した場合における残余財産の帰属者選定。
- (8) 寄附金品の募集に関する事項。
- (9) 役員に対する報酬等（報酬、賞与その他職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準。
- (10) その他この法人の業務に関する重要事項で理事長において必要と認めるもの。

(評議員会の意見具申等)

第22条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第23条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 校長。
 - (2) この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者。(2人以上3人以内)
 - (3) この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25才以上の者のうちから、理事会において選任した者。(2人以上3人以内)
 - (4) 学識経験者のうちから、理事会において選任した者。(2人以上7人以内)
 - (5) 法人功労者のうちから、理事会において選任した者。(2人以上5人以内)
- 2 前項第1号、第2号及び第4号に規定する評議員は、この法人の職員及び理事の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

(任期)

第24条 評議員(校長たる評議員を除く、この条中同じ。)の任期は2年とし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。また、評議員の任期の満了日をその任期が満了する年度の3月31日とする。

- 2 評議員は、再任されることができる。
- 3 評議員は、その任期満了の後でも後任者が選任されるまではその職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

第25条 評議員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
 - (2) 評議員たるにふさわしくない非行があったとき。
- 2 評議員は次の事由によって退任する。
- (1) 任期の満了
 - (2) 辞任
 - (3) 死亡

(顧問)

第26条 本法人に顧問をおくことができる。

- 2 顧問は、法人に特別功労があった者のうちから理事会が委嘱する。
- 3 顧問は、本法人の業務について理事長の諮問に答える。
- 4 顧問は、理事会並びに評議員会に随時出席して意見を述べることができる。ただし、議決に加わることはできない。

第5章 資産及び会計

(資産)

第27条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産及び運用財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用資産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産、運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第29条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、その一部に限り処分することがで

きる。

(積立金の保管)

第30条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金若しくは定期郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第31条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用資産中の不動産及び積立金から生じる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第32条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

2 この法人の会計は、学校の経営に関する会計とする。

(予算及び事業計画)

第33条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第34条 予算をもって定めるものを除くほか、新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決がなければならない。

2 借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第35条 この法人の決算は、毎会計年度終了後2月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、決算及び事業の実績を監事の意見を付して評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第36条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書、役員名簿(理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。)を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類及び第15条第4号の監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を各事務所に備え置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供さなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除く。同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

第37条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なくインターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。

1 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき 寄附行為の内容

2 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容

3 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿(個人の住所に係る記載の部分を除く。)を作成したとき これらの書類の内容

4 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給基準

(役員の報酬)

第38条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(資産総額の変更登記)

第39条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後3月以内に登記しなければならない。

2 資産の総額変更登記完了後は、速やかに鳥取県知事へ届け出なければならない。

(会計年度)

第40条 この法人の会計年度は、4月1日から始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

第6章 解散及び合併

(解散)

第41条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- (1) 理事会における理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決
- (2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の3分の2以上の議決
- (3) 合併
- (4) 破産
- (5) 鳥取県知事の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあつては鳥取県知事の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあつては鳥取県知事の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第42条 この法人が解散した場合（合併又は破産による解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席した理事の3分の2以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第43条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て鳥取県知事の認可を受けなければならない。

第7章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第44条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、鳥取県知事の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、鳥取県知事に届け出なければならない。

第8章 補 則

(書類及び帳簿の備付)

第45条 この法人は、第36条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かなければならない。

- (1) 役員及び評議員の履歴書。
- (2) 収入及び支出に関する帳簿及び証憑書類。
- (3) その他必要な書類及び帳簿。

2 この法人は、第36条第2項及び前項の書類等について、積極的な情報公開に努めるものとする。

(公告の方法)

第46条 この法人の公告は、学校法人松柏学院の掲示場に掲示して行う。

(責任の免除)

第47条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限定契約)

第48条 理事(理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において、「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき、善意でかつ重大な過失がないときは、金12万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

(施行細則)

第49条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

1. 倉吉北高等学校の卒業生が年齢25才以上になるまで、当分の間第23条第1項第3号中「設置する学校を卒業した者」とあるは、設置する学校の卒業生又は在学生の保護者と読み替えるものとする。
2. この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理 事 長	倉 繁 良 逸
常任 理事	小 野 良 介
理 事	早 川 忠 篤
	伊 藤 武 夫
	徳 岡 松 太 郎
理 事	山 榊 博
	大 橋 二 郎
	浜 本 節 雄
	船 越 正 道
	松 岡 徳 太 郎
	徳 岡 英 太 郎
監 事	太 田 佳 六
	斉 木 修 一 郎

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、昭和47年5月1日から実施する。

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、昭和61年4月1日から実施する。

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、平成3年10月25日から実施する

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、平成6年6月22日から実施する。

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、平成17年3月28日から実施する。

附 則

- 1、この寄附行為の変更は、平成21年12月28日から実施する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、平成29年 1月26日から実施する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、平成30年 2月21日から実施する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、平成31年 3月25日から実施する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、令和 2年 4月 1日から実施する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、令和 2年 11月17日改正し、令和 2年10月 1日から適用する。

附 則

1、この寄附行為の変更は、令和 3年12月10日から実施する。